

平成28年度 常葉大学教育学部附属橘小学校 学校評価書

〈本校の学校評価の項目〉

- 1 経営の重点（重点目標）に関すること（各分掌での取り組みを含む）
 - 2 教職員の取り組みに関すること
 - 3 児童の成長に関すること
 - 4 特色ある教育に関すること
- 4項目について目標を掲げ学校評価を行う

1 経営の重点（重点目標）に関すること（各分掌での取り組みを含む）

生きる力の火種 （学ぶ力・自立心・豊かな心）を大きくする子の育成		学校関係者委員会の意見
自ら学ぶ力	学習態度・話を聞く態度・家庭学習の習慣を育てる	B
	<ul style="list-style-type: none"> ・低・中学年は全般的に、学習態度や聞く姿勢は担任指導が徹底しているが、高学年になるにつれ、一部の児童に崩れが見られる。担任指導が問題の児童に集中することで、授業の質が低下していることがあった。 ・家庭学習はよくやっているが、単純なドリル的な内容のものでも、対応できない児童もあり、昼休みなどを利用し個別対応している。 ・日記指導は、家庭学習の習慣化という機能は果たしている。 	<p>低学年は落ち着いて授業を受けている。全体として聞く姿勢がすばらしく、落ち着いていた。さらに自分を表現できる場面が欲しい。</p> <p>日記指導は、家庭学習の習慣化という機能は果たしているので、さらに、目的、ねらいを明確にし、質の向上を図って欲しい。</p>
	<p><来年度の方向性></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日記の指導方法については、学習指導部を中心に発達段階を踏まえ、目的、ねらいを明確にし、質の向上を図る。 ・問題解決的な授業も活動だけあっても学びがないものでは効果がない。研修と一体化しながら、個々の教員の授業力の向上を図る。また、学年部、教科部の組織を生かし教材の共有化、蓄積化をさらに図ることで、授業の質を高めていく。 	
B		
豊かな心	思いやりと奉仕の心を持ち自主的・意欲的に生活する力を育てる	B
	<ul style="list-style-type: none"> ・心の優しい児童が多い。特に1年から3年くらいまでは、よく教員の指導が入り、奉仕の精神にあふれている。廊下や階段、オープンスペースなどの共有スペースを自主的に清掃し、「あいさつ隊」として朝、他クラスを回る姿があった。 ・仲よし活動を通しての異学年との交流は、見ていても微笑ましく、仲よし読書や月1回の交流会をはじめ、夏の校外活動でのお守りやメッセージの交流など意欲的に行った。 ・今年度は、高学年が起こすトラブルが多かった。バスの中をはじめとして、ASクラブでも一部の高学年の児童が起こすトラブルがあった。真面目なリーダーが、声を上げてリードする姿が弱かった。 	<p>子どもの発達を踏まえた指導方法をデザインしたい。特別活動を重視することで子どもの自立を促したい。</p>
	<p><来年度の方向性></p> <ul style="list-style-type: none"> ・低学年の活発で自主的な奉仕活動の取り組みを、中・高学年に広げ奉仕することの心地よさを感じさせたい。 ・「仲よし活動」「仲よし読書」の一層の推進と充実を図る。 	
B		
自立する力	整理整頓、言葉遣い、挨拶ができる力を育てる	B
	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶は義務的には行うが自らすすんで行う挨拶は習慣化されていない。 ・ことば遣いは教師に対しても、友達言葉で話す児童が多い。また、友達同士での会話では、汚い言葉を日常的に使うものもあり、それが元になるトラブルもあった。 ・下駄箱での踵をあわせて靴をそろえる習慣は出来始めている。 ・授業準備のための机上整理や身の整理整頓は、学力が伸び悩む児童は十分にできていないのが現状である。 	<p>社会にでてから活躍できる人材は、勉強一辺倒でなく、自立し豊かな心がそなわった人である。本質的な学びを重視して欲しい。</p>

	<p><来年度の方向性></p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶やことば遣いについて、学校全体をあげて徹底的に行いたい。その際に、“Tachibana Smile”というような合い言葉をかけあいながら、笑顔とともに元気なあいさつが学校中を飛び交うような雰囲気を作っていきたい。 ・朝夕の会、授業の開始・終了時に全校で足並みを揃え、意識した指導を行っていききたい。 	
--	--	--

2 教職員の取り組みに関すること

「徹底して子供を大切にせる教師」「子供が感嘆する教師力」「子供と友に育つ教師」をめざす		学校関係者委員会の意見	
生徒指導力	<p>教職員は一人一人の子供に寄り添い、個に応じた指導をしている</p>	A	B
	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数の良さを生かし、一日で声を掛けない児童がいないようにした。その結果、全体的に見て児童との信頼関係には厚いものがある。(保護者の評価、教師側の評価も高い) ・特別な支援が必要な児童に対して、指導は行っているが、実態の把握や指導の方法について課題も多い。 <p><来年度の方向性></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的な関わりについては現状の良さを来年度も継続をしていく。 ・特別支援が必要な児童に対しては、特別支援教育の研修を行い個々の教師のスキルを高めていく。また、大学と連携をして児童の実態把握のための体制をつくる。さらに、校内においては組織的な指導体制を作っていきたい。 	<p>教職員の熱心な姿勢を感じる。特別支援は必要で、自己肯定感がもてるようにしたい。</p>	
わかる授業	<p>教職員は子供にわかる授業をしている</p>	A	A
	<ul style="list-style-type: none"> ・わかる授業については、個々の教師が教材等を工夫した授業を行っている。わかる授業によって確かな学力がついたかどうかという視点に立てば、まだ改善の余地はある。 ・わかる授業のための研修体制は十分に機能している。個々が授業研を行い授業力の向上に努めている。 ・研修教科部が機能し、教育学部と連携を取った教科研修を積極的に行い個々の授業力向上に努めた。 <p><来年度の方向性></p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修において主体的、共働的な学びが機能する授業を追求しているが、こうした研修の成果を日常の中で今以上に生かしていくような授業を行っていききたい。 ・基礎的・基本的事項の定着にはかなり高い水準にある。しかし、全国学力学習状況調査のB問題にあたるような発展的な学習の定着に課題がある。日々の授業の中で課題意識を持って解決する場を多く設定したような授業を今まで以上に充実させたい。 	<p>わかる授業のための研修体制は十分に機能している。個々が授業研を行い授業力の向上に一層努めて欲しい。</p>	
情	<p>教職員は保護者のニーズに応じた学校の様子を知らせている</p>	A	B

報 公 開 力	<ul style="list-style-type: none"> ・学年だよりや学級だよりを月に一度発行し、児童の成長の様子を伝えている。 ・年間各学年4回の授業参観会保護者会を開催し、学年の実態、児童の様子を細かく伝えている。 ・学校HPを頻繁に更新し、新しい情報を保護者に伝えるようにしており、保護者からも感謝をされている。 ・「今日の一日（入り口に写真と文で児童の良い表れを掲示）で学校を訪れた保護者（児童迎え）に情報を提供した。 	いつでも来校してくださいと学校を開き、学校を知ってもらい、教員ががんばっている姿を見せることで保護者の信頼を得ることができる。
	<p><来年度の方向性></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者が知りたい情報は何かを分析し、学級だよりで、知らせる内容を更に吟味をし、質を向上させていく。 ・学校HPをフェイスブックとリンクできないかを研究する。 	

3 児童の成長に関すること

児童は「三方よし」の実践を行い「自ら学ぶ力」「自立する力」「豊かな心」を育てる		学校関係者委員会の意見	
授 業 の 理 解	児童は授業の内容や学習したことを理解している	B	B
	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の授業ごとに「学習課題」を提示し、一人一人が「何をすべきか」「何を考えるべきか」がわかるように工夫をした。また、「振り返り」により、つまづきを早期に気づき対応する手立てを取る等授業改善に努め成果をあげた。ただ、個別指導における指導時間が十分に確保できないことが原因で、定着までに至らないこともあり課題としたい。 	学ぶ姿勢、意欲、態度はしっかり身につけている。やり方の工夫でさらなる伸張が期待できる。	
	<p><来年度の方向性></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の成果を十分に生かし「問題解決的な授業」を更に推進 		
友 達 と の 協 力	児童は学級に友達がいて協力をして楽しく過ごしている	A	B
	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年とも、行事の目当てをよく理解し、実現に向けて友達と協力をして計画を立てたり実行したりする姿が見られた。 ・友達同士で声を掛け合い円滑な人間関係を気づいている。転校生など他の集団から入ってきた友に対しても上手に人間関係を作れている。 ・学級での行事計画や、学級での諸問題の解決など提案書を作成して議論をしている学級が多い。そうした話し合いが相互理解に繋がっている。 	礼節を重んじる教育は、学校内での居心地の良さにも通じていく。今後も継続して指導したい。	
	<p><来年度の方向性></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールや道徳心について学級活動の中で指導をし、一層の協力体制を作りたい。 ・児童の実態を把握する教師間の連絡を密にする ・児童が協力して何かを行えるような、場を意図的に設定していく。 		
	児童は自分で考え学ぼうとする力がついてきた	B	B

自ら考え学ぶ力	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニング「自主的な学び」を意識した展開により、子供自身が積極的に学ぼうとする手立ての工夫がなされ、主体的に学ぼうとする児童が増えてきた。 ・自分で考え学ぼうとする児童は多くはなかったが、まだ教えてもらうのを待つ児童もあり、「自主的な学び」は十分に浸透はしていない。 ・低学年では児童が自己表現をする姿が多く見られ、授業にも活気があった。高学年では受け身に終始する児童が比較的多く、前向きになれない場面もあった。 	低学年である程度の型を教え込むことは大事である。やり方の工夫次第で高学年の伸びは期待できる。一層の授業研究、教材研究に励んで欲しい。
	<p><来年度の方向性></p> <ul style="list-style-type: none"> ・低学年での学びが、中・高学年になって活かされていない現状がある。低学年での活気ある授業が、活動に終始し学びにまで高まっていたのかどうか、学びの質についても分析をしたい。さらに、中・高学年で前向きに参加できていない現状を更に分析を進め、どのようにすれば主体的に授業に向かえるのか、授業方法・教材開発両面から研究をしたい。 	

4 特色ある教育に関すること

特色ある教育（英語教育，オーケストラ学習，情報教育，書道，図書館教育）を行い，成果をあげている		学校関係者委員会の意見	
	各学年に応じた英語の力を付けている	A	B
英語教育	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年，興味を持って英語学習に取り組む児童やクラスが多く，自ら学ぶ力の基礎となる聞く力，読む力はついてきた。 ・段階的に発展するカリキュラムの整備に努め，月ごとに各学年が学習する目標文をはっきりさせ，掲示でも伝えるようにしたところ，英語教師だけでなく，担任や児童の意識も高まった。 ・5年間のカリキュラムをまもなく終える時点で，50%の児童が英検5級を，40%の児童が4級を取得した。授業の中で，個々の児童に対応しながら，児童の個性を生かす指導を心がけ，英語の授業を通して，学習態度だけでなく，人としてのあり方も伝えてきた。 		英検取得率が高く、指導も充実している。4技能のバランスを踏まえた授業展開を改善しながら、橘小の英語教育を築いていって欲しい。

	<p><来年度の方向性></p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度より高学年においては、週3時間の授業を実施する中で、「聞くこと」「話すこと」を中心に子供たちの「読むこと」「書くこと」への知的欲求に応えることができるように、4技能のバランスを踏まえた授業展開を改善しながら本校の英語教育を築いていく。 ・本年度、姉妹提携したオーストラリアの私学の一貫校 Emmanuel Anglican College と日常授業から、スカイプなどのインターネットを通して、全児童が外国の子供たちと交流を図ることができるようにする。 		
オーケストラ学習	各学年に応じた演奏技術を身につけ、合奏する楽しさを味わっているか	A	A
	<ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとに掲げている①演奏技術②合奏の喜びの甘受③演奏者（児童）相互の意識の共有等の到達目標は、12月に開催するオーケストラ学習発表会で達成でき、全児童が感動を共有する機会となった。 ・4年生のアンサンブル発表会では、個の演奏技術を高めると共に、アンサンブルの楽しさをパート間で共有する機会となっている。 ・5年生は卒業式のオーケストラ演奏を担当することにより、個の演奏技術と音楽の表現力を向上させると共に、学校の牽引的な意識を育てる意味で重要な役割を担うことができている。 		毎年オーケストラ学習発表会は楽しみにしている。学年の成長が見られるよい機会である。
	<p><来年度の方向性></p> <p>年度初めに指導者会議を開催し①学習と運営②指導についての心がけ③「オーケストラ（合奏）の授業におけるチームティーチングの心得」について話し合いの場を持ち、オーケストラ学習の教育理念について確認をする。</p>		
	各学年に応じた情報活用技術・情報倫理・プレゼンテーション能力を身につけたか	B	B

情報教育	<ul style="list-style-type: none"> ・各種作品作りを通して文字入力，画像の貼り付け，写真撮影，プレゼンテーション作りなどの活用技術を身につけることができた。各学年全員が作品を完成させ，発表することができた。 ・3年生～6年生は，授業開始10分間のタッチタイピング練習に取り組んだ。特に3年生のタッチタイピングの成長が顕著で，タイピング練習に生き生きと取り組むことができた。3年生は国語でもローマ字を学習する為，興味関心が高く，この時期からタッチタイピングの学習を始めるのは有効であった。 ・情報倫理に関しては，低学年で，「アニメーションで学ぶネットモラル」という教材を使った授業を行った。また，5年生ではNHKのスマホリアルストーリーという動画を使った情報倫理の授業を行い，情報倫理に対する関心を高めることができた。 ・2020年からプログラミング教育が必修になることから，今年度はプログラミング教材の「ビスケット」での指導を試みた。1年生～6年生まで発達段階に合わせた内容で，3～6時間の授業を行った。どの学年も，生き生きと取り組むことができた。ビスケットは「プログラミング的思考」を育成するには有効な教材であった。 	<p>1年生から当たり前のようにコンピューターを活用している姿があり、充実した環境にある。新しい教材の研究に努めて欲しい。</p>
	<p><来年度の方向性></p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度実施された内容を参考に授業を行った。昨年度は担任も指導に加わり2人体制だったが本年度は1人体制であった。その為，昨年度と同じ授業内容では，手が回らない場面が多々あり，児童が助けを求めてもすぐに対応できない事があった。来年度は，今年度の反省を踏まえて，授業内容を見直し，友達同士の教えあい学習の場を増やすなどの工夫をして行きたい。 ・2020年に向けて，各種プログラミング教材を授業に取り入れていきたい。（ビスケットに加えて，スクラッチ，Hour of code，予算があれば，ロボットなど） 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・教材「アニメーションで学ぶネットモラル」を有効に活用していきたい。 ・タッチタイピングの練習に力を入れて行きたい。 		
書道教育	各学年に応じた書写技術を身につけ、日本文化の素晴らしさを体得することができたか	A	A
	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね各学年、個々の書写への意欲、技術習得は達成されている。 ・高学年の一部に学習の基本である、姿勢や運筆を意識できなかった者もいた。 		<p>学級や家庭においても、鉛筆の持ち方指導を自覚して取り組めるように工夫して欲しい。鉛筆の持ち方は、箸の持ち方につながり、食育や日本文化の伝承に通じていく。</p>
	<p><来年度の方向性></p> <ul style="list-style-type: none"> ・低学年においては、鉛筆の持ち方指導を徹底したい。学級や家庭においても自覚して取り組めるようにしたい。鉛筆の持ち方は、箸の持ち方につながり、食育や日本文化の伝承に通じていく。 		
図書館教育	「本を読むことの楽しさを知り、読書を習慣化する」「図書館情報を活用し、自分の課題や疑問を解決する力」が身についたか	B	B
	<p>1 読書活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が利用したいと感じる図書館になるよう、図書館イベントや掲示放送などを通して、常に情報発信を心がけてきた。また、月ごとの指導目標を見直したことで仕事の流れが整理され、ビブリオバトルやNDCビンゴなど、新しい試みも実現できた。昨年度には及ばないものの、集客に力を入れた成果は図書館の貸し出し数にも表れている。 ・図書館の利用が習慣化している児童は選ぶ本の質が変わっていく様子も見られた。しかし、未だ利用状況はクラス差、個人差が大きく、両極化している。 		<p>新しい試みをし、集客に力を入れた成果は図書館の貸し出し数にも表れている。図書館の利用が習慣化している児童は選ぶ本の質が変わっていく様子がある。今後さらに調べ学習などでの図書館の積極的な利用を推進して欲しい。</p>

2 学習活動の支援

・理科・社会等の学習資料のOS展示を何度か行ってきた。しかし、図書館を利用しての調べ学習が少なく、十分な学習支援ができたとは言い難い。各学年で情報利用についてのオリエンテーションを行っているが、実際に生かされている場面がほとんどない。

<来年度の方向性>

- ・今年度同様、常に情報発信を行い新イベントの定着を図る。
- ・担任と連携して読書の関心が薄い児童への働きかけに力を入れたい。・個々のニーズや発達段階に沿った本の案内を心がけたい。
- ・学習面については、求められた支援を行うだけでなく、積極的な授業支援に関わることができるよう、学年から学習の情報を収集するようにしたい。